

執筆者紹介

所澤新一郎^{しよざわしんいちろう} 本研究所客員研究員・共同通信社ニュースセンター整理部長
佐藤 慶一^{さとう けいち} 本学ネットワーク情報学部准教授
大矢根 淳^{おおやね じゅん} 本学人間科学部教授

〈編集後記〉

月報 660 号をお届けします。本号は、所澤新一郎客員研究員、佐藤慶一所員、大矢根淳所員が東日本大震災の被災地である石巻における聞き取り調査をもとに作成した「復興ステークホルダーの探索的再構築に関する研究実践—被災地・石巻での聞き取り調査から」をテーマとした調査報告書を掲載しました。本報告書は、石巻復興きずな新聞舎、一般社団法人サードステージ、一般社団法人はまのねの3つの団体、4名の担当者から復興支援の現状について、詳細なヒアリングをもとに作成したものであります。東日本大震災が発生してから、既に7年の歳月を経ています。被災地における復興支援の様子も大きく変わって来ました。被災された多くの方々は既に仮設住宅から出て、市街地の復興公営住宅（災害公営住宅）に移住するようになったとはいえ、依然として何らかの理由で仮設住宅から脱することができない方達もいます。石巻復興きずな新聞舎の岩元暁子さんに対する取材で、新聞活動はいつまで続くかという質問に対して、最後の一人が仮設を出るまで「こんにちは〜きずな新聞です」という真心を込めた「手紙」を一人一人の仮設の住民に手渡す活動を続けていくという発言に私は大変な感銘を覚えました。確かに、時計の針は止まることなく、復興作業は着々に進められています。しかし、一人でも仮設住宅に残っている人がいれば、復興支援は終わったとはいえません。本報告書はこうした現場から見る復興支援における実践活動の重要性を改めて認識させてくれました。

(徐一睿)

2018年6月20日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 宮 寄 晃 臣

製 作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
